

「 養生七割 原田宗典 」

2 5 0 6 1 9

過日、宴席でペンキ屋の若大将と知り合いになった。若大将といっても、四十代のおじさんだが、この彼に率直な質問をしてみた。

「プロのペンキ屋の極意とは何か？」

彼はちょっと困ったような顔をしていたが、しばらく考えてからこう答えた。

「親父がよく言っているのは、養生七割ってことですかね」

この答えは意外だった。私はてっきりペンキの塗り方についての答えが返ってくるものだとはばかり思っていたのだ。それが、大事なのは養生、つまり塗装前の準備と後始末だと言うのだから、予想外だった。

「だから親父は養生テープとかにすごくこだわっていて、新しいのを見つけるとすぐに買ってきて試すんですよ」

「なるほどねえ。養生七割か」

いい言葉だな、まさに職人の考え方だな、と私は感心した。後日、行きつけの美容院で、この話を得意げに披露してみた。

「ペンキ屋の極意は、養生が七割なんだってさ」

美容師のKさんは、この話に即座に反応した。

「あ、それよく分かります」

「え？美容師もそうなの？」

「ええ。私、昔ね、先輩に聞かれたことがあるんです。右手と左手、どちらが利かなくなったら困る？ 私は右利きだから、そりゃあ右手が利かない方が困るって答えたんです。そしたら、先輩は違うって言うんです」

「左手のが困る？」

「そう。左手の方が大事なんです。右手はね、はさみが持てなかったら、バリカン使えば髪は切れるでしょ。大事なのは髪を梳（す）いて押さえる左手の方なんです」

「じゃあ右手三割、左手七割？」

「まあ、そんな感じですかね」

「つまり養生七割か」

なるほど、そうだったのか、と私はまたもや感心した。ペンキ屋にしろ美容師にしろ、いい仕事をする職人は、きっと素人の目には見えない七割の養生を大事にしているに違いない。

以来、私は人の仕事や世の中の物事を、養生を何割くらいにしているか、という視点で捉えるようになった。そういう目で見てみると、この三対七という割合は散見される。

例えばプロ野球のバッターも、三割打てる人は、きっと七割の養生を大事にしている。現在大リーグで活躍中の大谷翔平も、眠ること、つまり養生を何よりも大事にしているというではないか。

人間だけではない。もっと巨大な視点で捉えると、地球全体の三割に満たない陸地を支えているのは、海という七割の養生なのかもしれない。